



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

サハラ、砂漠の回廊

著者名	野町和嘉	発行年	2010年
出版社名	新潮社	ページ数	119ページ
値段	3,400円	ISBN	978-4104025039
コメント	タッシリ・ナジェール、サハラ砂漠の最深部。 忘れないでほしい。ここはかつて、水ゆたかに溢れ、カバやワニが悠然と泳ぎ、人びとが白黒まだらの牛を飼って暮らした恵みの地であったことを。祭りの日には仮面を付けてみんなで踊り、祈りの時には両手を掲げて白い巨人を遙拝した繁栄の地であったことを。 エジプトに文明が栄えるずっとずっと昔。紀元前七千年から八千年間もの永き時を描き継がれてきたという岩窟の砂絵。不思議な乳房の描き方に見入りつつ、古代びとの呼び声に耳を澄ます。		

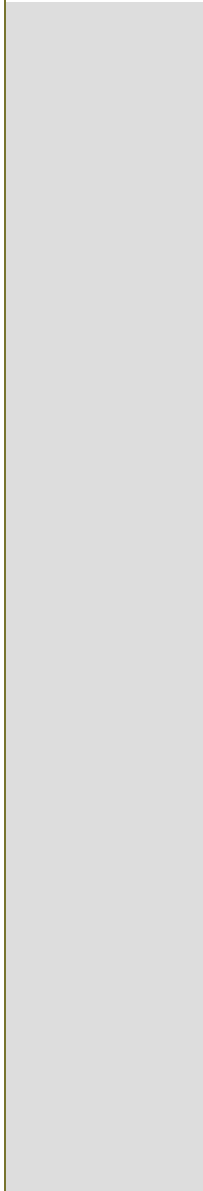
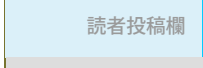
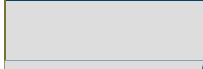
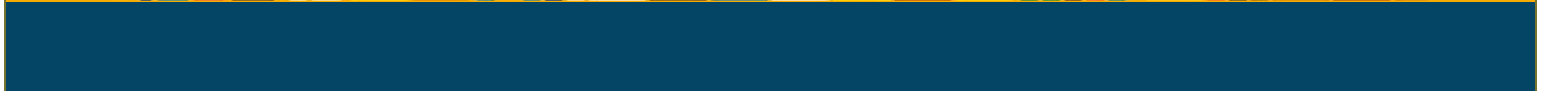
読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
カンコーヒ ☆☆☆☆☆	アフリカの北部のサハラ砂漠。 砂漠ってちょっと綺麗だなって思ったけど、実際もっと厳しいよね、たぶん。			
	1-119	119P (30分)		2012/02/15 01:34:19
p i g(・∞・) ☆☆☆☆	地上絵みたいなのがたくさんあって、 何を考えて作ったのかなって思ったらおもしろかった。			
	1-119	119P (30分)		2012/02/09 15:15:44
ただ ☆☆☆☆	THE砂漠			
	1-119	119P (10分)		2012/02/04 02:01:44
らびっと ☆☆☆☆☆	まず、砂漠に様々な表情があるなんて驚いた。 また、その多様な砂漠の形態から自然の神秘を感じられた。対照的に、サハラ砂漠にある壁画が伝える古人の思いも想像できた。 サハラ砂漠の美しさを知る一冊。			
	1-119	119P (15分)		2012/01/31 22:22:35
	景色が雄大でした!! 壁画からは当時の文化や人々の生活が分かり歴史が受け継がれているところなんだなぁと感じまし			

アカシア ☆☆☆	た!! 一生で一回は行ってみたいです☆			
	1-119	119P (20分)	107-108	2012/01/24 13:02:11
ながーる ☆☆☆☆☆	砂漠がこんなにも美しい場所なんて!! 洞窟壁画の存在も知りませんでした アフリカに行ってみたくになりました			
	1-119	119P (5分)		2012/01/24 12:42:41
専務 ☆☆☆☆☆	サハラ砂漠ってなんもないとこだと思ってたから 壁画があることにまずビックリ! 絵からは当時の様子をすごく想像することができた いずれ実際に訪れて、現地の空気や温度を感じながら 古代の人の思いを感じ取りたい!			
	all	119P (30分)		2012/01/18 16:59:40
あああああ ☆☆☆	初めCGだと思っていたのが本物でびっくりした。			
	1-119	119P (60分)		2012/01/10 19:42:06
アップルジョン ☆☆☆☆☆	とても砂漠が印象的だった。 小さい頃に観たディズニーのファンタジーを思い出した。 音がなくとも視覚で感じられる光景。 これを機に思い切って広大な場所に足を踏み入れようと思う。学生時代、何やってもいいんだから、何か特異な刺激を求めたい。			
	1-119	119P (50分)	32-33 98-99	2012/01/10 15:40:39
ぶち ☆☆☆☆☆	今とは違うサハラの豊かな自然の中で暮らした先住民たちの生活を、今も残る様々な壁画をもとに紹介していく本です。エジプト文明のような大きな社会集団でなくても、このように壁画がたくさん残っていることには驚きです。 壁画以外にも今のサハラの自然を写した雄大な写真もたくさんあって見応えバツグンです。ぼんやり眺めるだけで時間が過ぎてしまいます。			
	1-119	119P (50分)	102-103	2011/12/27 12:26:45
じん ☆☆☆☆☆	歴史を感じた。岩壁に描かれている絵は、何年も前に描かれているのに、きれいに残っている。昔の人の技術に感動!			
	1-119	119P (60分)	54-55	2011/12/12 22:53:11
おにぎりんめ ☆☆☆☆☆	大きくて美しい写真がたくさん載ってます。 中でも夕焼け色に染まった砂漠の写真は本当にきれい。 人生で1回はサハラ砂漠に行ってみたいなあ・・・			
	1-119	119P (60分)		2011/11/29 20:34:17
しろ ☆☆☆☆☆	8000年という気が遠くなるほどの歳月を経てもはっきりと刻み込まれている壁画。この途方もない長さを考えると驚かすにはいられない。その壁画には狩りをし、牛を飼い、儀式を行う彼らの生活が描かれている。しかし、現在では岩と砂、そしてほんの少しの緑が残った大地が広がっているだけである。地球の歴史というものをを感じる。			

	1-119	119P (50分)	62-63 88-89	2011/11/29 00:27:41
坂本さん ☆☆☆☆	気の遠くなるような昔にもキリンやゾウはいて、人間も生活していた。当たり前のことだけど、その痕跡がこんなに綺麗に残っているとその時間の長さを想像できない。サハラ砂漠の幻想的な風景と共に堅い岩に描かれた壁画が神秘的に見えた。 彼らは何を思ってこれらの絵を描いたのだろう。なんだか不思議な気分になった。			
	1-119	119P (60分)		2011/11/23 21:16:28
アニマル ☆☆☆☆	山羊や牛などの動物を飼い神を崇める。今は荒れ果てた砂漠でも遥か昔には緑があふれ現代の民族と変わらない生活をしていた事がよくわかる。何もない砂漠の洞窟の岩壁に古代人の記憶が刻み込まれている。なんとロマンチック！			
	ALL	119P (60分)	無し	2011/11/16 18:41:42
R2D2 ☆☆☆☆	異文化との衝突を感じる……！ 8000年にもわたって描かれ続けた壁画、当時の習俗の様子、これらには近代国家の一員となってから100年ちょっとと言う日本人の伝統へのこだわらなさに比べて、途方もない継承の繰り返しがあったことを実感。むごいほどに荒涼としている砂砂漠の姿に圧巻！ 誰にも顧みられなかったものを求めて旅をする筆者の熱意にうたれた。			
	1-119ページ	119P (45分)	32-35ページ	2011/11/10 21:42:30

[TOPへ](#)



死刑執行人サンソン			
著者名	安達正勝	発行年	2003年
出版社名	集英社	ページ数	237ページ
値段	700円	ISBN	978-4087202212
コメント	仕事として人を殺す。その不条理をプロフェッショナルとしての誇りを以て乗り越えていった、たくましき家系の男たちの肖像が、じつにいきいきと提供され、ギロチン華やかなフランス革命の奔騰のまっただなかに首根っ子ごと巻き込まれる。		



ペンネーム お勤め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
なっちゃん ☆☆☆☆☆	今日の日本にもある死刑制度 世界的には死刑制度廃絶のニューマが強く、死刑を執行する側にも悩みが多い中今でも続く理由は何なのか この問題はもっと大きく取り上げられるべきだと思った			
	1-237	237P (160分)		2012/02/15 01:07:23
* ^ - ^) ☆☆☆☆☆	小説の「ストロベリーナイト」を思い出しました。目の前で人が殺されるのを見た時、最初は自分を恐怖の感情が支配するのですが、虐殺場面に慣れるにつれ、恐怖感が次第に「自分は生きている」という優越感、満足感へと変化して行って…、っていうお話。 当時のパリの人達にも通ずるところがあるかもしれないなーと思いました。人間の負の感情のパワーってすごい。			
	1-163	163P (90分)		2012/02/14 07:23:02
Nob ☆☆☆☆☆	かたい内容を想像していたが、そんな事はなく、読み易く面白かった。 さすが初期から残っているだけはある。 時間があれば、最後まで読みたかった。			
	高額報酬を貰って合法に人を殺す仕事。 いくら待遇がよく、その仕事しか出来なくても、人を殺して行きて行くとゆうのは、、、なるべくなら避けて通りたい。 でも、こういう仕事の人の事を考えると、善悪の価値観について考えてしまう。			

	1-79	79P (60分)		2012/02/05 00:51:27
いち ☆☆☆☆☆	映画を見ているかのような気分でした。人間の色々な心情（愛情だったり畏怖だったり情けだったり）が入り乱れていて色々と考えさせられました。			
	1-241	241P (180分)		2012/02/01 17:05:17
R2D2 ☆☆☆☆☆	本書中での表現から語弊を恐れずに表現をするならば、知性があり気が利いて信心深く平等主義の死刑執行人サンソン。 彼が記憶に残るべき人物である理由は、晩年にいたるまで自分の仕事について苦しみ続け、反問し続けた誠実さにあると思う。一族の歴史を後代へ伝えたことも重要だ。こんな話があってよいのか、と読んでいて苦しいが、どうやら歴史的信憑性が高いようで、受け入れがたい現実常に苦しめられたサンソンの苦しみにより心に響いた。 立ち読みポイントに挙げたのは、ヴェルサイユで死刑囚が解放された事件に関して。本書中で民衆が、最も死刑制度を厭いつつかつ死刑執行人に氣遣った場面だと思われる。			
	1-241ページ	241P (160分)	58-67ページ	2012/01/19 23:50:19
ちゃむ ☆☆☆☆☆	この本を読んで死刑について感じたことは、昔は死刑や罰は見せしめとして犯罪を抑制させるものであったが、現代では犯罪者を世の中から引き離す手段でしかなくなっていることである。 人知れず死刑囚は死んでいくのなら、現在の死刑制度にはどの程度の意味があるのかと思う。 死刑論を述べる前に、死刑のあり方が変わってしまったこと、誰のための死刑なのかを考える必要がある。			
	1-241	241P (195分)	41-46,71-73,135,153-154163,237-239	2012/01/12 12:05:57
おにぎりぬ ☆☆☆☆☆	死刑制度にもこんなに深い歴史があったことに驚きました。 「なぜ君は絶望と闘えたのか-本村洋の3300日」とは違った視点で死刑制度というものを考えさせられたと思います。			
	1-237	237P (180分)		2012/01/10 16:42:44
Albert ☆☆☆	死刑制度に関する本は数多くあれど、死刑を執行する側からの本は読んだことがなかったです。サンソンが最後には、死刑反対を訴えていたのが興味深い。			
	1-241	241P (40分)		2011/12/16 22:09:47
ながーる ☆☆☆☆☆	面白かった。ベルばらと同じ時代、貴族や平民のほかにも処刑人がいて、ジレンマを抱えて生きていたってことを初めて知りました。フランス王室やフランス革命を新たな視点で、しかもすんなり頭に入って来ました。			
	1-237	237P (100分)	ルイ・カペーを処刑した後の苦悩編	2011/11/04 01:33:44
てでい ☆☆☆☆☆	中世のフランスでの話だったので、洋画をみているようで実際の話だという実感はもてなかった。差別や宗教、王政といった私たちには普段馴染みのないことが多く、この本をそういったものに馴染みのある人が読んだら、また違った感想を抱くのかもかもしれないと思った。 日本で今行われている死刑を執行する人というのもあるわけで、どんなことを考えているのだろうと思った。			
	1-237	237P (190分)		2011/10/27 20:31:12

妄想族 ☆☆☆☆☆	死刑を職業とするは人と歴史を綴りながら、社会・人間・道徳・正義などについて現代には無いところをえぐっていたのでよかった。小説のようにスラスラ読めます。			
	1-237	237P (180分)	最後の2-3ページ	2011/10/22 22:52:56
わぐなりあ ☆☆☆☆☆	死刑執行人の視点から見るフランス革命は意外なものであり、新鮮でした。そして革命という激流の中、悩みながらも自分の職務として処刑を執行していくサンソンの姿が印象的でした。			
	8-104、151-199ページ	146P (60分)	178-199ページ	2011/10/20 20:10:46
p i g(・∞・) ☆☆☆☆	死刑されるのも嫌だけど、するの嫌なんだ…… 死刑執行人として生きていくしかなかったサンソンの苦悩が綴られています。 現実感がないせいのためか小説を読んでいるようでした。 流し読みでもなかなか面白い。			
	1-241	241P (180分)	234-239ページ	2011/10/12 01:38:39
Elmo ☆☆☆☆	世襲として引き継いだ、死刑執行人という逃れられない運命。 人を殺すという事への覚悟。 実際に存在した人々だからこそ考えさせられるものがあります。 死刑の仕方を事細かく描写する場面があるので、グロテスクなものが苦手な人はそこを飛ばして読むことをオススメします。			
	1-239	239P (150分)	137-176	2011/10/10 21:28:33

[TOP](#) ^



-
- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

戦争広告代理店

著者名	高木 徹	発行年	2002年
出版社名	講談社	ページ数	405ページ
値段	619円	ISBN	978-4062750961
コメント	世論は善悪をハッキリ決めたがる。バルカンの小国ボスニアは、アメリカの広告代理店の力を借りて、敵ユーゴスラビアを悪役に仕立てることに成功する。ほんとうの悪者はいったい誰？		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
なっちゃん ☆☆☆☆	ノンフィクションであり題材も重いものであるが小説のように読みやすい。日本人は（日本人に限ることでもないかもしれないが）信憑性の低い統計などを鵜呑みにしやすいと感じるし、情報化社会で日本の現状というのは非常にまずい状態にあると思う。こういった事例を知ることはこれから社会を生きる上で必要だと感じた			
	1-405	405P (240分)		2012/02/15 01:43:04
Elmo ☆☆☆☆☆	知らない間に情報によって私たちの正義は作られているのかもしれない。真実だけを追えるようになりたいな			
	1 - 405	405P (210分)	all	2012/02/14 13:34:59
こるく ☆☆☆☆☆	PRによって、世論が大きく影響されるというケースを生々しく見せつけられ、衝撃的だった。メディア・リテラシーという言葉聞いたことがあるが、情報社会化した日本においても、個人がしっかりと情報を見極めていくことが大切だと思った。			
	1-405	405P (300分)		2012/02/11 23:29:54
いち ☆☆☆☆	長いけど最後まで読んだ方がいい。情報操作は恐ろしいと思うし、それができる立場にいる集団や人間は利用するだろう。情報に踊らされないように気をつけなきゃ。			
	全部	405P (240分)		2012/02/01 17:08:14
アップルジョン ☆☆☆☆	情報操作は怖い。でも、それは自分が日本人であるから、なおさら感じる事なのかもしれないとも思う。			

	all	405P (200分)		2012/01/30 01:16:18
柊 ☆☆☆	情報操作の恐ろしさを知った。 いつか世界中でこういったことが起こるのかもしれないと思うと、日本は今のままではいけないと思った。			
	全部	405P (200分)		2012/01/10 12:01:03
Albert ☆☆☆☆☆	湾岸戦争でのナイラの偽の証言が戦争広告代理店によって作られていたことは知っていたので、話としては入りやすかった。 2元論が好きなアメリカ人に対して、セルビア人を悪者としてバッシングを行ったり、「強制収容所」というある意味トラウマである用語を使うことで、嫌悪のイメージを持たせるなど、知られざる戦略があったことを知った。 日本もPR戦略は研究してほしいなあ。			
	1-405	405P (140分)		2011/12/16 22:25:05
bakeneko ☆☆☆☆☆	世界情勢においてPR戦略が極めて重要であることは知っていたけれど、これほどまでに大きく情勢に影響するものであるとは知りませんでした。外交下手と頻繁に非難される日本の人間としては、非常に重い事実でした。 けれどももっとも驚いたのは、決定的に世論を動かしたのが悲惨な現状ではなくて、むしろ『強制収容所』であったということです。どちらも許しがたいことではありますが、個人的にはむしろ前者のほうが大問題に感じられるのですが。 欧米社会がナチスにたいする敵感情をいまでもこれほど強く持っているという事実は、しっかり心にとめておかねばと思いました。			
	1-405	405P (150分)	226-235	2011/11/24 08:39:39
しろ ☆☆☆☆	情報操作の恐ろしさを改めて実感させられた一冊だった。国際世論を利用してセルビア人のみを悪者に仕立てていく巧妙な手段に驚かされた。その中でも敵対するものは容赦なく攻撃し国際的に孤立させるやり方には倫理的な疑問を抱かずにはいられないが、今後はこの分野での競争はさらに激しくなりそうだ。しかし、他国ではこういった情報操作に精通しているのに対して日本政府はあまり関心を持っていない。このままではいけない。			
	1-404	404P (240分)	240-278	2011/11/22 00:15:12
ちゃむ ☆☆☆☆	これからの世の中はこうなるのだろうかと思った。 日本は遅れているのかもしれない。国民性にもよるのだろうか。ほめられた行為ではないような気もする。しかし結果的に良い方向に進むのならば？小泉元首相もそういう人だったのでは。真実はいつかわかってもらえる？日本はおめでたいのか。とにかく日本の政治は中途半端だ。国民も... いろいろなことを考えてしまった。			
	1-405	405P (275分)	第12章	2011/11/11 15:49:59
あき ☆☆☆☆☆	タイトルを見たときは小説かと思った。書いてあることも普段私たちが目にする部分ではない。でも、なぜか現実にあったことだと実感できる。それは、書き手がどの登場人物にも感情せず、そして読者にさせないように、第3者の視点で冷静にボスニア戦争でのPR戦を分析しているためだと思う。 ボスニア戦争にほぼ関係していない日本人としてはとても興味深く読める。ただ、ボスニア戦争時に現地にいた住民など一般のモスLEM、セルビア、クロアチア人が本書を読んだらどんな気持ちになるのだろうかと思った。			
	1-405	405P (180分)		2011/11/06 21:07:35
	PR戦略によって民意を動かす広告代理店の影響力の大きさが衝撃的であった。情報化が進む昨今、			

わぐなりあ ☆☆☆☆	どのように情報と対峙していくかを考えさせられる。個人が客観的に情報を読み取るために、この本で書かれている事実を知ることが重要である思う。			
	14-65、110-204	147P (60分)	152-180	2011/10/24 20:52:56
R2D2 ☆☆☆☆	ノンフィクションの話で、このように込み入った話になるのは珍しい、と解説にもありました。全くそうだと思います。 本書は善玉・悪玉の二元論で語るより、ずっとワクワクする展開。 なぜなら、どっちが正義か、最初から決まっている書き方をする作品は退屈だからです。 現実のメディアの現場も、本当はこの本のように面白い仕事に違いありません。でも、最近あんまりテレビは面白くないって感じちゃいます。			
	1-405ページ	405P (270分)	第四章 情報の拡大再生産	2011/10/21 03:52:23
片道1.5時間 ☆☆☆☆☆	本書の題材は、旧ユーゴ圏における戦争PR合戦という、地域の点でも内容の点でも日本人には全く馴染みのないものである。まずライターに書かせたら、10ページと読まれずにブックオフ行きになること間違いなしだ。 しかし、著者は英語が堪能な国際ジャーナリストというだけあって、アメリカ的な、ノンフィクションを「読ませる」技術を熟知している。適度にちりばめられた欧米式のユーモア（≠ジョーク）、実在の登場人物の「キャラクター」化などだ。そのおかげで、政治陰謀ものの翻訳小説でも読んでいる気分ですらすらページが進む。もちろん、しばらく読み進むうちにテーマ自体の面白さにも気付く。タイトルを見た時点でめんどくさそうだと敬遠してしまった人もぜひ手にとってほしい。 本書のなかで著者も指摘していることだが、世界の国々が（戦争以外でも）自国の政策のPRということを真剣に考えているなか、日本の政治家や官僚のPR下手ときたらそれこそ目も当てられないほどである。そもそもPRという概念があるかどうかすら怪しい。最近の首相の中でPR戦略という考えを持っていたのは（政策自体の是非はおくとして）小泉純一郎元首相ぐらいではないだろうか。この本を国会議員と外務官僚の課題図書にしてほしいぐらいである。			
	全部	405P (180分)		2011/10/17 17:00:53
おわこん ☆☆☆☆	読んでいて、あまり心地のよい話ではない。 日本の企業や政府機関のPR戦略の欠如or不足している中で、この本はとても有意義な事例を与えてくれるだろう。			
	1-405	405P (180分)	181-204	2011/10/08 18:30:48
てでい ☆☆☆☆	ボスニア・ヘルツェゴビナ ボスニア戦争 名前だけは聞いたことがあるけど、世界史で学ぶわけでもなくそのままに生きてしまった今日。自分の知らなかった史実+裏側の世界というものを知ることの面白さがいっぱい詰まった本です！後半以降から、筆者の個人的思想が文体に見え隠れするのがちょっと気になったので☆4つで			
	1-405	405P (150分)		2011/10/06 22:31:57



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

日本列島の20億年

著者名	白尾元理	発行年	2009年
出版社名	岩波書店	ページ数	100ページ
値段	1,900円	ISBN	978-4000057707
コメント	写真がすばらしい。特に空撮。鳥の目でしっかりと山や川が、どんなふうに地形をつくってきたかが見てとれる。ナンバー20の新雪富士にほれぼれ。解説が、もっと愛想良かったらなあ。できればイラスト入りがあらまほしい。良い企画なのに、そこがホント惜しい。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数 (時間)	立ち読みポイント	投稿時間
なっちゃん ☆☆☆☆	自然の写真を見ていたときはきれいだなくらいにしか感じなかったけど、最後で人間がたった数百年の間にここまで地球を変えてしまったのかと思うと少し複雑			
	1-100	100P (30分)		2012/02/15 02:53:43
ただ ☆☆☆☆	最初の方は綺麗だなー自然ってやっぱやべえなーって。んで最後な。スゲーセンス感じる。人間が作り上げた大地ー東京ー何か東京の街が汚く見えたよね。うん			
	1-99	99P (30分)		2012/02/04 02:40:15
じん ☆☆☆☆	普段暮らしている日本とは全く違う「日本」を見ることができました。こんなにきれいな自然があるなんて思わなかった！！			
	1-100	100P (30分)		2012/01/23 18:03:50
あああああ ☆☆☆☆	初めの方の自然の写真と対照的に最後の人間が作り出した世界というのが印象的だった。			
	1-100	100P (25分)		2012/01/19 20:27:24
	これぞ地球だ！			

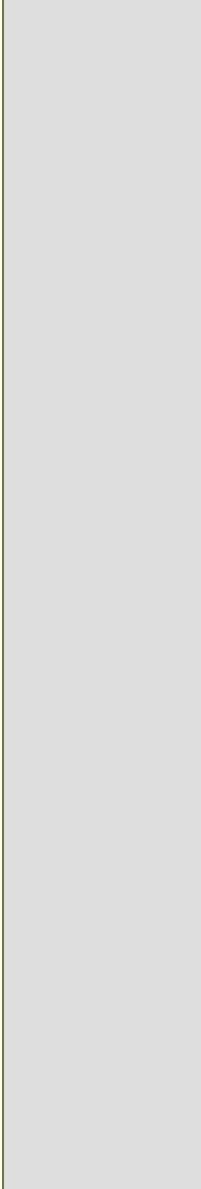
アニマル ☆☆☆☆	群馬の河岸段丘の地域は僕の地元です（笑）			
	1-100	100P (30分)		2012/01/13 18:02:54
Albert ☆☆☆☆	これが日本か！ 多くの日本っぽくない写真がその本には並んでいました。 まだまだ日本には知られざる自然があると思われました。			
	1-100	100P (30分)		2011/11/24 15:09:22
アカシア ☆☆☆☆	この本の中には日本列島のたくさんの火山や地層など雄大な地形が出てきます。 自然の力の強さに圧倒されると共に、緑や池、海などとの調和の美しさに感動さえします!! たくさんの自然の写真の一番最後にある写真は、自然とは全く異なる写真で私たちにメッセージを残しているように思います。 日本の雄大な地形を知ると共に、それを大切にしていきたいと思わせてくれる本です。			
	1 -100	100P (30分)	No.33(P.50, 90)、No.44(P.62,95)	2011/11/22 11:12:00
しろ ☆☆☆☆	それぞれの写真から地球の歴史が感じられた。二十億年という途方もない歳月によって創り出された大自然にただ見とれるばかりであった。			
	1-99	99P (30分)	7 17 33 40	2011/11/22 09:44:49
ながーる ☆☆☆	高校の地理や地学の授業を思い出した 東京の写真はつつい自分が知っているところを探してしまいました			
	1-99	99P (20分)		2011/11/20 22:33:14
坂本さん ☆☆☆☆	人間は心のなかに持つなにかをキャンバスにぶつけて、それをartと呼ぶ。「じゃあ地球はどうしてこんな絵画を描いたんだろう。」とか考えた自分があまりにも馬鹿馬鹿しくなった。 あくまで物理現象でできた地形を勝手な人間たちが「大自然の織り成すアート」とか矛盾した言葉で表現しているに過ぎない。けど、「もしや」と思うってしまうこともあるのだ。			
	1-99	100P (20分)		2011/11/16 20:23:16
おわこん ☆☆☆	普段都市に住んでるとみることのない、日本の景色が見れて新鮮。日本の国土は狭いが、そのなかでも人間が住んでいるのはほんの一部分であることを改めて実感させられる。たくさんの写真からの最後の写真への流れは感慨深い。			
	1-99	99P (25分)	33,48,50	2011/11/05 00:38:33
p i g (・∞・) ☆☆☆☆	写真の部分だけを見ました。 一枚一枚大地の形成を思わせる重みのある写真でした。 ごつごつした岩やなめらかな岩に思わず触りたくなりました！			
	1-71	71P (40分)		2011/11/04 10:19:22
nodo ☆☆☆☆	人目線の庭の写真、と同じノリを感じました。 地球目線の風景写真、って感じ。			
	「あれ。いい感じの植木だろ。あそこの木はね～、もともと根っこが柔らかいんだよ。だからまずあの辺の土を腐葉土に代えるところから始めて、やっと今のいい感じになったんだよ～。いや～、大変だったね。」 「あれ。いい感じの崖だろ。あそこの崖はね～、もともとはもって地中であつたんだよ。でも長年の地殻変動と気候変動によって、やっと今のいい感じになったんだよ～。いや～、大変なことだよね。」			

	1-99	99P (20分)		2011/10/28 09:11:02
タワー ☆☆☆☆	日本にこんな壮大な自然が広がっているのか、と驚きあまりの壮大さに身の引き締まる思いでした。写真の一枚一枚に日本という大きな島のたどってきた軌跡を感じることができる。最後の一枚は人間の手によって変えられた地表の姿が写されている。そのギャップにどうか驚いてください。			
	1-72 98-99	74P (20分)	69-72	2011/10/24 23:16:15

[TOP](#) ^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板



武士の家計簿

著者名	磯田道史	発行年	2003年
出版社名	新潮新書	ページ数	203ページ
値段	680円	ISBN	978-4106100055
コメント	埃まみれの古文書から微細にあぶり出される武士家族の収入と支出。維新を乗り切ったつましい暮らし。映画化、来しました。		

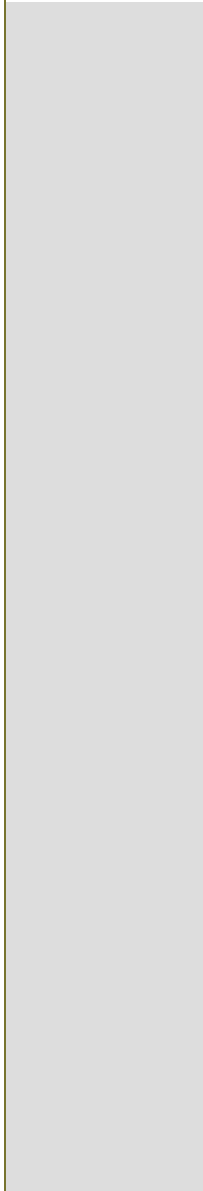
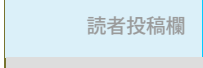
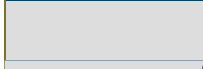
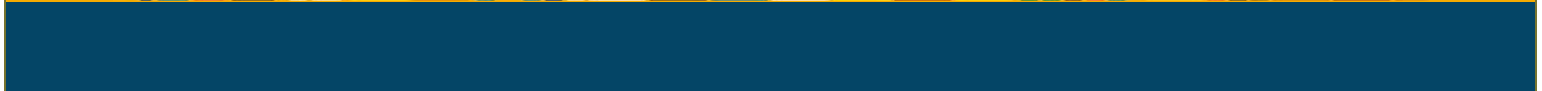
読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
カンコーヒ ☆☆☆☆	みんなも書いてるけど、武士大変。 「武士は食わねど高楊枝」って話。			
	100-120	21P (15分)		2012/02/15 01:40:05
なっちゃん ☆☆☆☆☆	当時の武士の生活について教科書を読むだけでは見えないものが見えてきて非常に面白い本だった。ただ読み切るのは少し大変かも			
	1－300	300P (250分)	1－100	2012/02/14 23:32:11
アニマル ☆☆☆	武士って楽しってるのかと思ったら大変なんですね。意外でした。映画も見たいと思います。			
	all	203P (120分)		2012/02/01 22:54:50
らびっと ☆☆☆	映画化された本！きっと読みやすいに違いない。 そう思って読み始めたら、真面目具合についていけない。これで良く映画になったな。 本当はこの本、おもしろいだろう。 でも僕には向いていないみたい。 悔しいから、DVD借りてリベンジしてやる。			
	157-177	21P (15分)		2012/01/31 03:20:32
柊 ☆☆☆☆	映画になっていたのは知っていたから興味を持っていた。 だから小説だと思っていたら、加賀藩御算用者の実際の家計簿を元に歴史を読み解くという、何とも面白い本だった。 これを元に映画がどのようになっているのかも気になったので、今度映画を見たい。			

	全部	218P (140分)		2012/01/10 12:03:39
片道1.5時間 ☆☆☆☆☆	加賀藩（現在の石川と富山）の御算用者（会計係）である下級武家、猪山家の家計簿をもとに、幕末～大正期までの貧乏武家の生活史を追う。 学校で習う歴史ではすっかり抜け落ちていて、下級武士の生活風景が見えてくる。將軍家や大名も借金まみれで大変だったというが、下級武士も似たような状況だったらしい。武士が借金しないやっていたらなかった原因もきちんと説明される。 またこの本は、猪山家の生活史をメインストーリーにしながら、幕末～大正期の歴史の流れ、その背景や意味、当時の人がそれをどう見ていたか、といったことも教えてくれる。これがすばらしい。猪山家という主人公をすることで読者は興味をひきつけられるし、彼らと同じ視点から歴史を見ることになるので理解もしやすくなる。 私は、小中高と3回も習ってもいまいちぴんと来なかった明治維新というものを、この本ですっきりと理解できた。明治維新という日本史の最重要イベントについて納得いかないところが残っている人は、4章以降を読んでみるとすっきりすると思う。			
	全部	203P (120分)	4章以降	2011/12/19 17:25:48
Albert ☆☆	武士って、生活苦しいのに身分を誇示するために全収入の1割をつぎ込んでいたんですね。誇示しないと、今の身分でいられないとはいえ、なんだかなあ。			
	1-203	203P (70分)		2011/11/30 22:41:09
R2D2 ☆☆☆☆☆	幕末維新の歴史の変遷の中で、猪山家が低い身分ながら藩主付きの筆記担当者になったり、維新後は新政府にヘッドハンティングされついには海軍会計にまでのぼりつめるという、壮絶な歴史スペクタクルとして読める。私は『坂の上の雲』のようなタイプの史記が好きなので、そのような記述が最も楽しめる部分だった。 その反面、破産寸前まで追い込まれて、刀さえ売ってしまう儉しい生活を行ない、それでも武家の生活様式を保持するために、娘の祝いの席に絵の鯛を出すなど涙ぐましい努力を行う、下級武士の日常の風景が意外な形で示される。 御算用者というのは会計役で、技術職のサラリーマンのような仕事をしていただと考えれば、将来の自分の生活にも通じる所があるのかもしれない。また、とりまく武家たちの中でも、武勲と名誉にのみ縋って生きる士族の没落が避けられないものだったことがよくわかった。			
	1-203ページ	203P (160分)		2011/11/15 17:23:35
てでい ☆☆☆☆☆	武士はもっと豪勢な生活をしてると思ってた。 見栄っ張りだったんだね。 使用人よりお金ないのに偉ぶってたってなんかおもしろい。 プライドって厄介ね。			
	1-203	203P (250分)		2011/11/07 11:21:49
こるく ☆☆☆☆☆	加賀藩の武士が書き残した家計簿や手紙を基に、江戸から明治にかけての暮らしぶりを垣間見ることのできる一冊。 何にお金が多く使われたのか、収入は現在の価値でどのくらいか、など興味の対象は尽きないけれども、特に自分が面白いと思ったのは手紙につづられた明治維新に対する武士の心境や対応である。 時代を実際に生きた人の記録には歴史の教科書などでは決して知り得ない情報が多く、知的好奇心が満たされた気がした。			
	1-218ページ	218P (180分)	159-176ページ	2011/10/26 21:17:39
わぐなりあ ☆☆☆☆☆	題名からは一見地味な印象を持つが、家計簿から明らかになる単なる日本史の学習だけでは知ることのできない武士の暮らしぶりは興味深いものだった。またこの本で描かれている士族の姿は意外なものであった。歴史に関してほとんど無知な自分であったが、それほど読みにくさは感じなかったのでこのコメントを読んだ人はぜひ読んでほしい。			

	47-218	172P (80分)		2011/10/24 21:20:46
ちゃむ ☆☆☆☆	序盤は読みづらかったが、のちにお金の額を現代の感覚に合わせて書いていたりと次第に引き込まれていった。子どもの成長に一喜一憂したり、借金のために家族会議を開いたりと数字の計算の裏に見え隠れする生活が温かく感じた。 幕末の動乱の不安は現代日本が感じているものと同じかもしれない。歴史は繰り返される。あとがきにも「歴史とは過去と現在のキャッチボールである」と書かれている。歴史は死んだものではなく、火山のように同じような爆発を繰り返しながら積もっていくものではないかと考えた。			
	1-218	218P (165分)	77,89,98,あとがき	2011/10/14 16:42:04
ぶち ☆☆☆☆	金沢藩のとある武家が幕末に残した「家計簿」を通じて、その一家の幕末における暮らしぶり、ひいては当時の武士たちの暮らしぶりを事細かく語る本です。当時の武家の生活をより詳細に語ろうとして、家計簿に書かれていた収入・支出額やその具体的な内容、内訳が本書には何度となく出てくる上、もちろん当時の貨幣の単位を用いているので少々とっつきにくいですが、無理なく読めると思います。 「当時の武士たちはこんなことに苦労させられたのか」本書を通じてこう思われる人も多いでしょう。			
	45-126	81P (60分)	76-79	2011/10/10 22:30:28

[TOP](#) ^



トランクの中の日本

著者名	ジョー・オダネル	発行年	1995年
出版社名	小学館	ページ数	98ページ
値段	2,500円	ISBN	978-4095630132
コメント	たぶん戦争体験って、こんなふうにしかな手渡してゆけないのかもしれない。 ハエが真っ黒にたかったりんご（90ページ）とか、アルミニウムのお盆（30ページ）とか、そして彼の代表作と称えられる96ページの少年……痛みなしでは受けとれない。 写真の重み、それが語るドラマの重みを受けとめつつ、並記されている英語のコメントにも目をとめてください。それもまた、ジョー自身が刻んでいったたいせつなメッセージだから。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
おにぎりんぬ ☆☆☆☆	ところどころ衝撃的な写真が載っていました。 代表作である少年の写真は特に…。 絶対に戦争の記憶を風化させてはいけなと感じた。			
	全部	98P (20分)		2012/02/05 21:09:05
らびっと ☆☆☆☆	パラパラと写真だけ見た。 戦時中の写真を見る機会なんてあまりなかったため新鮮だった。 私が思い描いていた戦争の景色と違った景色を見せてくれた。			
	1-98	98P (20分)		2012/01/31 22:35:43
アカシア ☆☆☆☆	オダネルが撮影した少年の写真は中学の教科書で見たことがあったため、彼の名は前から知っていました。 始めは外国の人でこのように日本にきて戦争の残酷さを伝えていることに驚きましたが、このような事実は世界中の人々が目を背けてはいけないことだと思います。 文章でなく、写真だからこそ見る人の目により鮮明に焼きつけ、メッセージを残すのだと思います。			
	1-98ページ	98P (60分)	96-97ページ	2012/01/25 17:32:00
R2D2 ☆☆☆☆☆	陽気な、一介の米軍青年カメラマンでしかなかった著者が、日本に上陸して暫く爆撃地をめぐるうちに、日本人の捉え方に矛盾を感じるようになっていったのがわかる。正しいことをしたはずなのに、目を覆うほどの苦しみが生じ、現地に広がっているのが耐えがたく、一度忘れてしまおうとした著者の気持ちが忍ばれる。 わたしは中学の教科書で例の焼き場に立つ少年の絵を知った。彼が戦後生きているらしいことを伝			

	えた特番も見たことがある。			
	1-115ページ	115P (90分)		2011/12/31 16:04:53
こはる ☆☆☆☆☆	中学だか高校だかで教科書にこの中の写真の１枚と文章が載っていたので、リストで見たときから気になっていた。目を背けたくるけど、背けちゃいけないまっすぐな事実。運動会のようなほっとさせるような日常の１枚によって、はっとさせられる。歴史を歴史として切り離してはいけない。いつ自分の日常に入り込んできてもおかしくないのだ。何の罪も無い子がどうしてあんなに大人びた辛い表情をしなければいけなかったのだろうか。このどうしようもなく泣きたくなる気持ちを忘れずにいなければいけない。			
	P1-98	98P (60分)	P52-53	2011/11/04 01:09:18

[TOP](#)^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

任天堂“驚き”を生む方程式

著者名	井上 理	発行年	2009年
出版社名	日本経済新聞出版社	ページ数	288ページ
値段	1,700円	ISBN	978-4532314637
コメント	人生のたくさんの時間をお世話になってきた、いやたぶん今もお世話になりつつあるゲームの世界のお話。京都の花札屋がいかにして世界制覇を成し遂げたか？なんてまとめると、ありがちサクセスストーリーっぽく聞こえるけれど、どうしてどうして、この会社はタダモノではない。「最先端じゃなくていい、枯れた技術でじゅうぶん」「僕は役に立たないモノを作ってる」、経験に裏打ちされたスゴイ言葉がぼんぼん飛び出してくる。数時間のインタビューをお手軽にまとめたのとは底力の違う、取材の手あつさがあってこそだろう。気合いの入ったルポルタージュである。 そして何より、社長の岩田さんが我らが東工大の大先輩だってことに、アツくなれる……はず！		

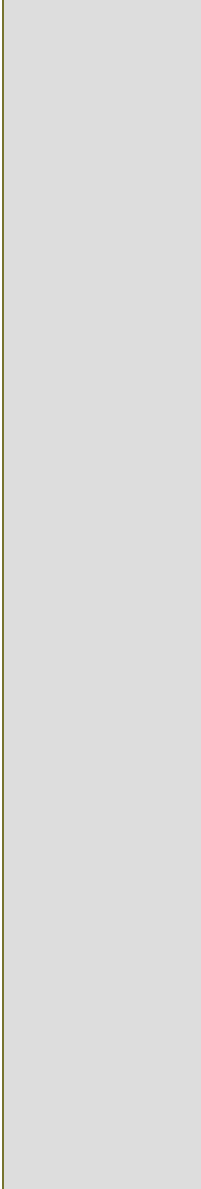
読者投稿欄

ペンネーム お勤め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
タワー ☆☆☆	スーパーファミコンから任天堂にお世話になっているので非常に興味深く読みました。 こうして生まれたゲームで自分は育ったのか…… 各章の初めにかっこよい言葉が書かれているのでそこだけ読むだけでもいいかも			
	76-220	144P (40分)	76	2012/02/14 12:35:55
アニマル ☆☆☆☆	任天堂すげー。ゲームキューブとかあまり売上よくなかったらしいけどwiiとDSで大成功しましたね。いやーホントお世話になりました。いい思い出です。			
	all	288P (200分)		2012/02/01 23:00:04
専務 ☆☆☆	小さいころからお世話になっている任天堂さん 娯楽に徹せよ。独創的であれ。 そういった任天堂の哲学が成功の裏にあることを知った。 今、任天堂は経営悪化であるが、これからどのようにして立て直していくのかすごく興味深い。			
	all	288P (180分)		2012/01/31 23:34:03
ボールボーイ ☆☆☆☆	小さいころからお世話になってきた任天堂。 今の時代、相手が子どもだけじゃない中、やっぱりいろいろな戦略があるんだなと思った！！ これからもSONYと競ってゲーム社会を引っ張って行ってほしいです！ゲームやりたい			
	1-288	288P (180分)		2012/01/27 18:16:47

Nob ☆☆☆	任天堂のがソニーやMicrosoftとは違う事がよく分かった。 社長の岩田さんは東工大出身という事にびっくりww DSやWiiなどの開発秘話を読めます。			2012/01/18 10:53:08
	1-99	99P (120分)		
柊 ☆☆☆☆☆	タイトル通り、驚きの連続でした!! 私はゲームには詳しくないですが、「任天堂らしさ」を大切にしようとする独創性、発想力には脱帽の一言でした。 人気のDSやWiiの誕生の裏を知ってゲームに興味がわいたし、今までWiiだろうがPS2だろうが大して違いもわからなかった私が、「任天堂」というブランドに対して尊敬の念を抱きました。			2012/01/10 12:39:22
	全部	307P (180分)		
カンコーヒ ☆☆☆☆☆	立ち読みポイントあったんだけど、どこかわすれちゃった。 「普通の人が分からないのは、自分が間違っているからだ」的なことを宮本さんが言ってた場所です。この思考回路、見習いたいです。 3 DSのマリオとマリカーを最近買いましたw			2011/12/20 01:37:08
	1-307	307P (300分)		
Albert ☆☆☆☆	既読。 任天堂が全盛期だった2009年初頭に書かれた任天堂のサクセスストーリー。最近是不調な任天堂ですが、なぜ不調になったのかと考えながら読むのも面白いと思います。 不調の原因は、この本の最後で危惧されていたAppstoreといった、新しいゲーム公開の場の存在があると思います。ハードを購入しなくても、iPhoneを持っていれば、すぐに楽しめる。また、個人でも手軽に公開でき、市販のゲームと対等に競争ができる。その結果、様々なアイデアによって、しのぎを削っている。この2点が大きいと考えます。 ちなみに、任天堂はここで説明した、Appstoreの存在が任天堂の売上を下げている、という見解を否定し続けています。将来、任天堂がどのような新しい一手を取るのか、楽しみです。			2011/12/12 22:42:01
	1-288P	288P (120分)	p290-296	
てでい ☆☆☆☆	様々な領域に事業を拡大する企業が多い今の時代に、固く自分達のドメインを守っていることがすごく印象的でした。 ちょうど、スーファミ→64→キューブやDSが小中学生だったので、世代的にも懐かしく読めました(^^)			2011/10/16 17:31:16
	1-288	288P (110分)		
ちゃむ ☆☆☆	それぞれの章の始めに書かれている言葉がこの本を、任天堂のを端的に表している。しかし、その言葉の真意は本文を読まないと伝わってこない。 任天堂は大儲けをしたいのではなく、ただ人々驚かせて楽しませたいだけということが繰り返し伝わってきた。			2011/10/06 12:02:31
	1-304	304P (195分)	各章の始めの言葉、78,82,143,180ページ	



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板



奇跡のリンゴ

著者名	石川拓治	発行年	2008年
出版社名	幻冬舎	ページ数	192ページ
値段	1,300円	ISBN	978-4344015449
コメント	変わりものの困りもん。津軽弁でカマドケシと呼ばれるそうな。そのカマドケシさんが、変わりもんであるがゆえに成し遂げてしまった、とんでもミラクル無農薬リンゴ。徹底的に現場主義、リンゴの木から一歩も離れずに語られる体験談がすがすがしい。なるほど、生態系を殺すことから農業って始まるんだね、と納得。九年ぶりに白い花を咲かせたりんご園。木村さんと一緒にお花見をどうぞ。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
カンコーヒ ☆☆☆☆☆	りんごの無農薬って無理なの？って疑問から入った。木村さんの実直なやり方には胸を打たれます。			
	1-192	192P (120分)		2012/02/15 01:47:06
アカシア ☆☆☆☆☆	木村さんの生き方は素敵だと思います。無農薬農法を探る過程で人間は一人では生きていけないということを感じ、自然を尊重していくようなやり方で独自の農法を見つけたその熱意に圧倒されました。りんご嫌いの私でも木村さんのりんごは食べてみたいと思いました!!			
	1-192ページ	192P (200分)	113ページ、131ページ	2012/02/12 23:45:14
* ^ - ^) ☆☆☆☆	朴訥で、まっすぐで、周りに流されない。こういう生き方してみたいって思わせてくれる本です。			
	1-192	192P (45分)		2012/02/11 18:40:47
専務 ☆☆☆☆	家族や生活、すべてのものを犠牲にし人生を捧げる生き方 そこまでして初めて見えるものがあるんだなあ			
	all	192P (90分)		2012/01/18 16:15:01
ボールボーイ ☆☆☆☆	ありのままに という生き方がとてもかっこいい。こういう生き方って難しいと思う。 適当にとった本だけど、とても気持ちのいい本でした			

	1-192	192P (150分)		2011/12/26 23:55:09
Albert ☆☆☆	これほどの手間がかかる問題だからこそ、農薬を使っている現状があるのだなと思いました。しかし、諦めずに試行錯誤を続け、遂には絶対不可能と言われていた無農薬でのリングの栽培に成功。その精神には感服します。			
	1-192	192P (30分)	p154-156	2011/12/12 22:18:36
こるく ☆☆☆☆☆	リングの無農薬栽培という難題に、真正面から取り組み、成功させたリング農家の木村さん。何年も失敗し続けても、家計が苦しくなっても、近所の人々に冷たくされても自分の目標に向かって必死に取り組むその姿は、僕に「不屈」とは何かということを教えてくれた。木村さんの作ったリング、人生一度だけでも食べてみたい。			
	1-192ページ	192P (150分)		2011/12/06 19:45:15
妄想族 ☆☆☆☆☆	自然のままに、無垢なままに生き、生かされている。なにかにぶち当たった時は、自分の中の常識を捨ててみる。 私達が将来的に必要なことが全く違う体験から得た人がここにいる。 自分もこのような人になれたらいいなと思った。			
	1-192	192P (120分)		2011/11/29 11:50:18
しろ ☆☆☆☆☆	リングを無農薬で実らせるという不可能と言われたことを可能にした。彼がそこに至るまでに重ねてきた苦労と努力に心を打たれる。無垢な心で自然と向かい合ったからこそできた偉業だ。現代の人間と自然との関係について深く考えさせてくれる一冊だった。			
	1-207	207P (150分)	192-200	2011/11/22 09:56:39
R2D2 ☆☆☆☆☆	9年間の完全無農薬リング栽培の失敗、収穫ゼロ、極貧という絶望の底をさ迷い歩いた先に、奇跡的な体験を通してユニークな農法を確立し続け、ついにはリング農家の常識であった「リングは農薬なしに育てられない」という考えを打ち破った、そんな感動的なノンフィクション。 彼は「農業は自然と切り離して考えることはできない」といった独特の農法思想を持っている。9年の歳月の意味はこの思想にこそ結実するだろう。しかし、このリング農家の木村さんは、農家を始めた直後からリング農法に関する書物を片端から学び、リングの木だけでなく害虫・雑草・天候などすべての環境について自分の目で延々と観察をし続ける、というプロセスを踏んでいる。小惑星探査機「はやぶさ」や、チンパンジー研究で有名なジェーン・グドールの逸話を連想した。			
	1-192ページ	192P (110分)		2011/11/16 23:27:13

[TOP](#) ^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

チェンジメーカー 1・2

著者名	渡辺奈々	発行年	2005年
出版社名	日系BP社	ページ数	459ページ
値段	1,600円	ISBN	978-4822244644
コメント	女のひとが多いなあ。ひいふう……18人のうち12人。 みんな笑顔がきれいだなあ。 世の中のためになる仕事。そんなのは、才能と運に恵まれたごく一部のエリートさんにしかできないさと思っていたけれど、今日び、意外とそうでもないみたい。国境なき医師団のようなシニセでなくても、いろんなNPOが生まれて、この社会の歪みを正そうと、しなやかに真剣に働いている。もしかして、その仲間たちのなかに、あなたの居場所があるかもしれない。 「地の塩」という言葉を思い出しました。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
柊 ☆☆☆	ホームレスのために働く女性の姿に感動しました。			
	54-63ページ	10P (15分)		2012/02/15 01:30:08
専務 ☆☆☆☆	10Pごとにいろいろな社会企業家の人たちが紹介されていくのでとても読みやすかった。 また、自分になかった考え方、新しいビジネスモデルなど勉強になることが多く、とても刺激になった。 そして、将来的に自分はどうありたいのか、どうしたいのかを考えるいいきっかけになったと思う。			
	100	100P (40分)		2012/01/31 22:05:36
しゅまり ☆☆☆☆	いろいろな人の話が載っていて、飽きさせない。 社会（世界）とのかかわり方っていろいろあるなあ…と思った。 今、中小企業診断士の本を読んでいることもあり、個人的には24〜32ページの話が興味深かった。 使い古された言葉だけど「生きがい」とか「やりがい」って大事なな、と思った。			
	al	220P (150分)	24-32	2012/01/17 20:57:14
	赤ん坊が周りに与える影響を上手く利用してる点がおもしろかった。			

らびっと ☆☆☆☆	確かに、赤ちゃんを見ると心が安らぐよね。			
	1-35	35P (15分)	10~23	2012/01/17 02:21:12
アップルジョン ☆☆☆☆	重く壁があるイメージのある社会において切り開いていく人の”発想”ってこうなんだってなんとなく感じられた本 ページの下に、関係するサイトが載っていて興味が湧けばそこにアクセスするだけでまた深く知れる。(英語だけだね！) 何か読者に広がりを持たせてくれる、そんな本だと思う			
	1-220	220P (120分)	10-23	2012/01/09 16:11:42
坂本さん ☆☆☆☆	世界中の社会起業家たちの例を紹介している。それぞれの起業家たちが、それぞれのおもいを持って仕事をしている事がよく伝わってきます。あ、こんなアプローチもあるのかとはっとさせられる。			
	1-270	270P (180分)		2011/12/21 23:12:10
nodo ☆☆☆☆	焦点がすべて個人単位で、話は進んでいく。 一種の偉人伝みたいな本です。 それぞれ捉え方は読む人次第だと思います。 僕は…いかんとも言い難い気持ちです。			
	・ 119-132	14P (5分)		2011/12/06 20:52:16
嫌好法師 ☆☆☆☆	元気が出るよ！元気が出る本って素敵！ 一人当たりが短いので、あまりにも簡単にみんな成功したように思えてしまいましたが、もちろんそんなわけないんだよなあ…としみじみ想像してしまいました。苦労話を永遠語る「成功者」より、明るく未来を語る「苦勞人」の方がかっこいいよね。かなり勝手な価値観かもですが。 ちなみにこの本だけ読んで社会起業したら、きっと大変な思いををすると思うので、頑張って勉強もしようと思いました。			
	1-220	220P (90分)	64-73	2011/11/26 23:22:58
わぐなりあ ☆☆☆☆	すべては利潤最大化のために働くことについて違和感を持っていたので、この本で紹介されていた新たなビジネスはとても興味深いものだった。貧困や教育などの社会問題を解決するために、この本に載っているビジネスモデルが日本を含め世界中で展開されるのを切に願う。			
	1-220	220P (100分)		2011/11/21 14:15:57
あき ☆☆☆☆	紹介されている人それぞれが違った魅力的な仕事をしていて、どれも興味深い。一人一人に対するページ数が少ないので、自分のお気に入りの人を見つけたら、その人に関する別の本を読んでみるのがいいかもしれません。 本の中でボスニア戦争に関する話が少しだけ出てくるのですが、これを読む前に「戦争広告代理店」を読んでいたため、本と本がつながって、そういう意味でも楽しめました。			
	1-73,84-93,114-153,164-173,184-220	170P (100分)		2011/11/19 14:22:55
R2D2	理念の達成が最上の目的で、持続可能性のために利潤は最低限に抑える。こんな起業のありかたがあるのか。 「やってみたいけど、なぜか日本ではありえないかも」と感じるのは、なぜだろう。僕は、日本には経済原理至上主義のようなものがあるのかな～、と思う。 若い人が起業するといえば、奇抜で、創造性に優れていて、というイメージがあるけど、ビジネスをするといえば、会社の利潤を絶対視するイメージがある。しかも、「社会のため」というのは旧			

☆☆☆☆☆

い人間の考えで、現に存在する「社会のため」の努力は売上がよい企業が(イメージアップの下心もあつて)お金の寄付をする、というものに限られているように思える。
ただ、起業するのがもし自分だったとしたら、間違いなく彼らに追随するような取り組みをしたい、と思う。

1-459ページ

459P (160分)

64-73ページ

2011/10/27 20:28:42

[TOPへ](#)



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール
覧

自己プロフィール

掲示板

国をつくるという仕事

著者名	西水美恵子	発行年	2009年
出版社名	英治出版	ページ数	297ページ
値段	1,800円	ISBN	978-4862760548
コメント	よく怒り、よく泣く。それがマダム・ミエコの推進力かも。 途上国を支援する世界銀行という仕事。電線に流れている電力まで二大政党が分捕り合戦している（インド235-236ページ）など、生半可な正義感では太刀打ちできない、絡まりもつれた現状に、それでも「何が正しいか」だけを武器に敢然と立ち向かう勇姿がすがすがしい。 いやそんなごりッパなお話はどうもね、というかたには、274ページ、伝統衣装外交のエピソードだけでも。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
しゅまり ☆☆☆☆	世界銀行というものの存在は学校の社会などで習って知ってはいたが、どんな仕事をするところなのかよく知らなかったし、デスクワークをするところなのかな？と思っていた程度だった。 しかしこの本を読んでそのイメージは一変した。 途上国やさまざまな問題を抱えた国での出来事が著者の実際の経験に基づいて書いてあり、生きた物語としてありありと伝わってきた。 淡々としている中にも感情を動かされるものがあり、一気に読んでしまった。おすすめです。			
	all	313P (120分)		2012/01/17 20:49:51
あき ☆☆☆	ほんの少しの巡り合わせで貧困を目の当たりにした筆者。そこで見た貧困の現実から生まれた一つの信念を持ち続け、その信念を軸に貧困の解決を目指していく姿が力強く、そしてうらやましい。 インドの貧民街の女性の、貧困から抜け出すことは街を出ること、との声には言葉を失う。 また、パキスタンのブット首相の話が出てくるが、亡命から帰ってきたときに盛大に迎え入れられていた映像を昔ニュースで見ていたので、「民衆の支持を得ている立派な人だったんだな」と思っていたが、本書を読んでみたら全く別の印象を持った。 来日していたブータン国王の就任時の話が載っていたのもタイムリーで興味深かった。			
	1-57,244-313	126P (80分)	256-260	2011/11/21 22:47:58
	立ち読みポイントに挙げたブータンの政治家をはじめとして国民一人ひとりに至るまでの政治道徳的な素質にはひどく驚かされました。 彼らにとっての政治は厳しい資格試験を通過した限られた特権階級による官僚制のそれではなく、民衆の間に分け入り真に幸福を求めるところにあるといいます。 逆に政治腐敗の酷い所では読んでいるこちらも辛い内容を多く含んでいます。独裁政治が国に貧困			

R2D2
☆☆☆☆

をもたらすこと、民主主義も一口にいいとは言えない国民性や風土との兼ね合いへの考慮が必要であることを確認できると思います。

災害の報道に際して海を越えて涙を流す筆者の共感能力は、行く先々で突発的に訪れた民家に暮らす人々の生活の困難、憤り、希望を見出して、その国の政治が行き届いているかを彼女の全人格をかけて判断するために大いに発揮されています。

1-297ページ	297P (250分)	58-74ページ「雷龍の国に学ぶ」	2011/11/01 23:24:51
----------	-------------	-------------------	---------------------

[TOP](#)へ



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

「社会を変える」を仕事にする

著者名	駒崎弘樹	発行年	2007年
出版社名	英治出版	ページ数	245ページ
値段	1,400円	ISBN	978-4862760180
コメント	そんなにゴタイソウな理想や使命感があったわけじゃないんだ。 ベンチャーやってて、ふと行き詰まって、じゃあなんか、金儲けじゃないことやってみつか、みたいな。 ワーキングママたちのために、子供が急病の時に預かってくれるNPO「フローレンス」を立ち上げた駒崎さんの、いきあたりばったり、でも大まじめでアツい浮き沈み人生。 ポコポコンとキーワードが大きなフォントになってて、そんな工夫も駒崎さんの人生みたいにメリハリがあって◎。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
アップルジョン ☆☆☆☆☆	とてもこの作者の男気が気に入った。 自分も勇気を持って踏み出していきたい、狭き門をくぐって。			
	all	245P (120分)	74-75	2012/02/13 23:29:25
いち ☆☆	何か他の本でも単なるボランティアでなく企業としてのNPOについての話を読みました。やはり現実世界ではそういったスタンスでなければ単なる絵空事になっちゃうよね。内容は素晴らしいし感銘を受ける本でした。 ただあの砕けた文体が合わなくて。。。			
	ぜんぶ	254P (100分)		2012/02/01 17:19:10
アカシア ☆☆☆	筆者のコマさんが自分の理念を持ちつつ、周りのたくさんの人に影響を受けながら、自分の夢の実現に向けて進んでいく様子が書かれています。 「社会を変える」ってなんだか遠くて困難なことに思えるけど、その根本にあるのは今までに無い新しい一歩を踏み出す勇気なんだなって感じさせてくれる本です。			
	1-254ページ	254P (250分)	123ページ、219ページ	2012/01/23 00:46:06
ちゃむ ☆☆☆☆☆	こういう道もあるのか、と目からウロコだった。 大学2年のこの時期にこの本と出会えて良かったと心から思う。 きっと著者は苦労も相当しただろうがそこまで重々しさを感じない。物語としてもさりと読めるので、ぜひ今、読んでほしい。			

	1-254	254P (110分)	122,6章	2011/12/13 12:49:55
Albert ☆☆☆☆☆	ソーシャルベンチャーの起業家の本です。 社会を良くしたいという理念で大きなリスクを背負ってまで、挑戦されたのは素晴らしいと思います。 印象的だったのが、ソーシャルベンチャーは利益を出してこと持続ができる、という現実的な視点に立っていることです。しかも欧米ではNPOがそれが主流だそうです。 （ちなみに、ナイチンゲールも同じ考えだったのは驚き！先見の明がある） いい本なのに、人気がなく、もったいない！			
	10-254	245P (120分)	198-212	2011/11/23 13:55:34
坂本さん ☆☆☆☆☆	鏡のような池に石を投げた所で、どんな波が立つかわからない。池から竜が出てくるかもしれないし、とんでもない魔物が出てきて襲いかかってくるかもしれない。もしかしたら、どんなに沢山石を投げ込んでもさざ波一つ立たないかもしれない。 でも、しっかりした石をもって、どこに投げ込むか見当をつけて力強く投げればすまし顔の池に波が広がってそれがやがてうねりになる。			
	1-248	248P (180分)		2011/11/16 19:36:44

[TOP](#)へ



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

「20円」で世界をつなぐ仕事			
著者名	小暮真久	発行年	2009年
出版社名	日本能率協会	ページ数	209ページ
値段	1,470円	ISBN	978-4820717416
コメント	テーブルフーター。社員食堂でヘルシーメニューを選ぶと、あなたが支払ったうちの20円がアフリカの子どもの給食になります。東工大生協でも始まりましたね。 先進国の肥満と途上国の飢餓を一举に解決してしまえという欲張りアイデアをビジネスとして成り立たせてしまった小暮さん。そのサクセスの舞台裏トークですが、パートナーシップの築き方やブランディングの手法など、ふつうの仕事に置き換えてもしっかり適用することができます。 その点、フローレンスの駒崎さんよりクールで論理的かな。		

読者投稿欄				
ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
柊 ☆☆☆	TFTってよく見かけるけど意味がわかっていませんでした。 食堂なんて全く使っていなかったけれど、利用してみようと思いました。			
	全部	209P (150分)		2012/02/15 01:20:30
R2D2 ☆☆☆☆	『「こっちを選ぶ方が自分のためにもなるし、他人のためにもなるし、それに、カッコいいよね」、そう思ってもらいたいです。(p.156)』——このような姿勢でNPOを運営している筆者の考えに、「どうして公的事業でビジネスができるのか」という疑問が拭かれた。 日本で社会起業家が評価されないのは、ビジネスと慈善事業は分けて考える、という習慣があるからなのかな、と感じた。少なくとも日ごろから自分はそう考えていた。この本を読んだだけでは社会起業への理解が足りないが、大学食堂のTFT献立はもう少し積極的に利用してみたいと思う。			
	1-219ページ	219P (100分)		2012/01/18 15:51:42
いち ☆☆☆☆	社会貢献の理想だけを掲げるのではなく、現実には上での社会貢献について記述してある。こういった現実も理想も見据えての行動を職として実行できる人の行動力と発想力がうらやましい！			
	1-219ページ	219P (60分)		2011/11/30 16:07:57
てい ☆☆☆	テーブルフーターってここの食堂のTFTのことだったんですね！ 食堂の紙見てびっくりしました！ 個人的には、社会事業よりこの人の前職のコンサルタントのほうが気になりました←			
	1-110	110P (60分)		2011/11/25 10:53:54

妄想族 ☆☆☆☆	社会事業というものにもものすごく興味がわいたし、実際に働いてみたいなと思いました。色々な形で世界に貢献できると思いますが、このようなNPOが日本によりたくさんできることを願ってるし、自分もその繁栄に関わりたいと思いました。ただ、前回企業系の本を読んで新鮮味が無かったので☆-1です。よかったです。			
	1-219	219P (100分)	202-212	2011/11/22 01:20:28

てでい ☆☆☆	東工大の学食でもよく見かけるTFTのNPO活動を始めた人のお話。 企業系2冊目ということもあり、前に読んだものとかぶる点も、 目の付け所、決断の速さ、突き進む力は見習うべきところがたくさんありました。			
	1-209	209P (70分)	34,68-69	2011/10/06 22:25:33

[TOP](#)へ



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

「つながり」を突き止める			
著者名	安田 雪	発行年	2010年
出版社名	光文社新書	ページ数	254ページ
値段	760円	ISBN	978-4334035884
コメント	着想の自由さが魅力。エイズ予防を呼びかけるポスターを目にするや、恋人連鎖のシミュレーション研究をさくさく始めてしまう、といった具合に。 抛るべき古典理論も踏まえるべき先行研究も持ち合わせない、若くてやわらかい学問分野だからこそ、なのでしょう。アルカイダでも新型インフルでも、大学生の試験情報入手でも（199ページ）、気になった切り口からのつまみ食いをどうぞ。 「社会シミュレーション」の授業でお世話になっている増田直紀先生も125ページに登場します。これもスモール・ワールド!?		

読者投稿欄				
ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
こるく ☆☆☆	誰々まで何ステップでたどり着くか、という話題が特に興味深かった。 情報化社会が進んでいる今、人間関係の広がりにより増していき、ネットワークが研究対象としてよりメジャーになっていくのではないかと思った。			
	1-254	254P (100分)		2012/02/11 23:49:03
アップルジョン ☆☆☆	ネットワークをつくるも人間だし、そこに怯えるも人間。 それは分かっているけど、改めて言葉にして言われると痛感する。目に見えないものを単一的に物理的感覚でとらえる恐怖もあるのだろうか。			
	1 - 46 91-163	118P (40分)		2012/01/30 01:07:58
わぐなりあ ☆	『「つながり」を突き止める』というタイトルから「つながりを突き止める本」だと思ったが、実際は方法論や筆者個人の感想が大きなウエートを占めている。 それにしてもあまりに話の脱線が多い。論理的に説明がなされているとは思えない。「冷蔵庫の中の余り物をテキトーに混ぜて作った夜食」というのがこの本の正直な感想。			
	1-46,91-163	118P (45分)		2012/01/18 01:34:51
らびっと ☆☆☆	ネットワークはSNSや遺伝子とタンパク質の関係など色々な種類が在る。本書は人間を中心としたつながりについて書かれている。			
	ネットワークサイエンスの入門書とのことだが、読んでいてすっきりしないから途中でやめた。 ただ、「近傍には気をつける」は納得。			

	1-163	163P (80分)		2012/01/17 01:41:05
R2D2 ☆☆☆	「関係」というのは直接観測できない情報であるから、著者の取り組みがいかに注意深くする必要のあるものであるか、言葉の端々に感じる。			
	1-86ページ	86P (60分)		2011/12/13 00:41:11
片道1.5時間 ☆☆	密度が低い。ムダが多い。話の筋道がない。 本筋と関係ないおしゃべりにやたらと脱線するし、文章も冗長。コンパクトな文章を書く人なら1/3くらいの長さに圧縮できるだろう。 章ごとのテーマが不明確。「結局この章で何が言いたかったの？」と毎回思う。テーマを決めて書くという書き方をしていないんだろう。そのことは、各章のタイトルで内容の本質を表せていないことから明らかだ。 さらに言えば、本全体を通しての話の筋道というものがない。各章の終わりに次の章への導入を書いてはいるが、バラバラに書いた章を無理矢理つなげてみたという感じは拭えない。 総じて、思いつくままに筆をとってみたという感じの本になってしまっている。学者なんだから、もっと論旨や着地点をはっきりさせてほしい。ネットワーク・サイエンス自体は面白い分野なんだろうと思うが、残念ながらこの本からはその面白さがあまり伝わってこない。他の入門書にあたったほうがいい。 6章だけはわりとまとまっていて内容も面白かった。ネットワーク研究とプライバシー倫理について研究者の視点から書かれた部分（78～89）も興味深い。			
	全部	254P (90分)	78-89、6章	2011/12/12 16:31:19
ボールボーイ ☆☆☆☆	ネットワークについての本でしたが、文章自体がそんなに堅苦しくなくて読みやすかった！ 後半がおもしろかったよ^^			
	1-254	254P (150分)	後半	2011/12/02 18:51:19
おわこん ☆☆☆☆☆	mixiやフェイスブックなどのSNSで、あいつとあいつ知り合いだったんだ！？ってことよくあるよね。			
	1-254	254P (120分)	91-140	2011/11/15 15:53:15
妄想族 ☆☆☆☆☆	これは私達=社工の人のための本のように感じた。最初は「あまり楽しそうじゃないな。」と思って読み始めたが、現代に生きる私達が知るべきこと、また社工だったら研究できたりする可能性のある事柄を述べてあり非常に興味深かった。 気が向かないものは飛ばして読んでみるのもありな本ですね。 題名、表紙に全く興味を示さなかったあなた。 そんな人ほど中身とのギャップに惹かれると思います。			
	1-254	254P (150分)	終章	2011/11/01 00:30:40
bakeneko ☆☆☆☆	まず内容とは関係ないありませんが、各章の終わりに次章の概説が載っているというスタイルが、僕には斬新でした。アニメの次回予告のようで効果的だと思いました。新書に合ったスタイルだと思います。 またネットワーク・サイエンスの概観・歴史・現在の状況などを紹介するさい、筆者の主観がかなりはいりこんでいる点が、非常に読みやすく好感が持てました。あえて主観を排する方向性もクールでかっこいいと思うのですが、これはこれで読みやすくいいと感じました。数字に還元されづらい、もしくは数字から立ち昇ってくる生活感のようなものの表現に、筆者は積極的に紙面を割いているようでしたが、主観が多分に混ぜ込まれた文章がこれに大変マッチしていて、好印象でした。 内容については、途中社内メールの分析で、社内階級とその人がメールで頻用する単語の相関について言及されている部分がありましたが、個人的にはここにもっとも強く興味を惹かれました。アニメや震災について語られるとき、個人個人の考えが実は頻用する単語によって誘導されているのではという感覚が最近ずっとあって、シンクロニシティを感じたからです。たとえば『危険厨』			

『安全厨』みたいな言葉が、SNS（特にtwitter）でどのようなネットワーク経路を辿ってパンデミックしていったのか、可能なら自分で研究してみたいとすら思いました。具体的なプランが考えられなくて自己嫌悪ストレスですけれど。

3-252

250P (70分)

91-93

2011/10/20 14:10:58

[TOP](#)^



- 図書一覧
- 書籍紹介
- 読者投稿欄
- プロフィール一覧
- 自己プロフィール
- 掲示板

なぜ君は絶望と闘えたのかー本村洋の3300日

著者名	門田隆将	発行年	2010年
出版社名	新潮文庫	ページ数	348ページ
値段	514円	ISBN	978-4101231426
コメント	電車のなかで読まないで。たぶん、涙が止まらなくなるから。 光市母子殺害事件。なぜに自分の家族が？突然に叩き落とされた奈落の底から、どんな光を頼りに青年は自らの力で未来を開いていったのか。それがいつしか日本の司法制度を変える大きなうねりとなってゆくまで。 一人称ではなく、情に流されない観察者の筆致で、しっかりとあとづけられた、たったひとりの、けれど重い足跡です。静かな熱さに吸い寄せられて、一晩で一氣に読みました。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
柊 ☆☆☆☆☆	残酷すぎて、読んでいて何度も涙が出ました。 全部は読み終わらなかったけれど、法律の不完全さ、不自然さに憤慨せざるを得ませんでした。 今後は法律によって守られるべき人が法律によって傷つけられることがない社会になるといいと思います。			
	1-149	149P (120分)		2012/02/15 01:25:26
p i g (・∞・) ☆☆☆☆☆	死刑制度について深く考えさせられました。 死刑を意識することで犯人も反省し、変わることができる。 でも死刑を意識しなければ自分の犯した罪とも向き合えない。 死刑が確定してからではやり直せないのに、死刑になるまで反省できないことがとても残念です。 そういう意味でもやはり死刑は必要なのかなと思いました。			
	1-348	348P (240分)	205-212	2012/01/22 11:21:07
ちゃむ ☆☆☆☆☆	プロローグで事件の悲惨さに涙した。しかしそのあとは冷静に書かれている。 自分は罰とはいえ人を殺すのは反対だが、死刑という制度は必要だと思っている。いろいろ考えさせられた。 エピローグから最後を読み、さらに複雑な気持ちになった。			
	1-348	349P (170分)	プロローグ,117-121,306-	2011/12/20 14:39:12
	明らかに、死刑賛成の方が書いた本である。読む前にまず、それを頭に入れておく必要がある。			
	罪を犯した人には罰を与えなければならない。これが守られなければ、社会は正常に動かないし、			

あき ☆☆☆☆	被害者にとっても加害者にとっても不幸なことになる。ただ、被害者が気を付けなければならないのは、罰を復讐にしないこと。加害者がしなければいけないことは罪に向き合い、罰を受け入れること。これが基本ではないかと思う。 被害者の裁判名の中での存在感が増す中、被害者が意見を聞く場が増えたのはいいが、罰が復讐にならないかが不安である。 また弁護団に問題があったのは明白ではないだろうか。被害者が裁判から取り残されているとの記述があったが、弁護団が代わってからの裁判では加害者も裁判から取り残されていた、または加害者が弁護士の業績を上げるための手駒となっていたのではないかと感じてしまう。それぐらいこの事件での弁護団の罪は重いと思う。 最近検察が批判されることが多いが、弁護士側にも批判されてよい点があるのではないかと考えた。 罰を受けるということがどういうことなのかを考えるのにはいい本ではないかと思った。		
	1-348	348P (200分)	2011/12/11 00:45:24

おにぎりんぬ ☆☆☆☆☆	高校生の頃、死刑制度についてのディベートを行ったことがあり多少は死刑制度について考えたことがあるが、この本を読んで当時より深く再び死刑制度について考えさせられた。 死刑制度が被害者遺族や被告に与える影響は何か、死刑制度は本当に必要なのか、死刑制度がもし存在しなかったら世間はどう変わるのか… この本を読んで私はやはり死刑制度は必要だと感じた。 また、私は今まで司法がこのようなもの(説明してしまうとネタバレになるので詳しくは言えませんが…)であったことを全然知らなかったし、おそらく多くの人が本当の司法がどんなものか知らないのだろうと感じた。 死刑制度や、司法、命の尊さ…様々なことを考えさせられる本だった。		
	1-348	348P (150分)	11章 2011/11/17 16:15:15

てでい ☆☆☆☆☆	重い話だし、すっごく考えさせられる！！ だからこそ、読むことをオススメします！ 昔、読んだことがあったみたいで話の流れは知っていたけど、それでも考えさせられました。 少年法。死刑制度。普段聞きなれないことではあるけれども、すごく大事な話だと思った。 少年法が適用されなくなったばかりの私達若い人がなんとかしていかなくてはいけない問題なのかなど、、、 一度、死刑制度に関する討論会に出席して、他の人たちの考えというものをもっと聞いてみたい。 本文中の、死刑囚の心の変化というのも興味深かった。被害者、加害者どちらの立場にもなれるし、ならなくてはならない本だと思った。 自分のことではなく、社会へ目を向ける第一歩になる本だと思う。		
	1-348	348P (110分)	2011/10/24 23:33:28



図書一覧

書籍紹介

読者投稿欄

プロフィール一覧

自己プロフィール

掲示板

祖国と母国とフットボール

著者名	慎武宏	発行年	2010年
出版社名	武田ランダムハウスジャパン	ページ数	336ページ
値段	1,890円	ISBN	978-4270005651
コメント	対日本戦になると燃えるんです、と在日フットボーラーたち。 生まれ育った日本を敵として戦うこと！によって、自分たちが何者であるかが確かになるのだと言う。 スポーツに国境なんかない、の逆。スポーツをすることによって国境が明瞭に見えてくる。その現場を掘り下げた共感レポート。選手ごとに分けてあるので、どの章からでも。		

読者投稿欄

ペンネーム お勧め度	コメント			
	読んだ場所	読んだページ数（時間）	立ち読みポイント	投稿時間
なっちゃん ☆☆☆	知っている人も出てくるのでサッカー好きな人は割と読みやすい でも在日に対する差別感情にあまり触れたことがなく、韓国や中国の反日感情も今の若い人はあまり持っていないと留学生に聞いたためあまりピンとこない話でもあった			
	1-158	158P (100分)		2012/02/15 02:28:06
こるく ☆☆☆☆	この本を読むと、在日社会に生きる後輩に貢献しようとするそれぞれの選手の切実な思いが感じられる。 苦しい立場に置かれても自らの道を模索し続ける選手たちの姿勢に、学ぶべきところは多いと思った。			
	1-336	336P (180分)		2012/02/11 23:56:03
あき ☆☆☆	在日だから、という理由で1対1の個人レベルで差別をされることはあまりないと思う。少なくとも私たちの世代では。 ただ、これが集団レベルになるといきなり差別感情が発生するのはなぜなんだろう・・・。 差別感情って根深いけど意外と単純なものかもしれない、と思った。			
	1-68,115-158,277-333	169P (100分)		2011/12/20 22:14:01
ボールボーイ ☆☆☆	鄭大世や李忠成など、知っているサッカー選手もでてきて 在日の人たちのいろいろな苦悩や考え方があり、興味深かったです！ 自分はサッカーが好きなのですんなり読めましたが、他の人はどうだろうといった感じです。			
	1-63,277-311	97P (60分)		2011/10/16 22:32:43

Elmo ☆☆☆	今でこそ有名になったサッカー選手「鄭大世（ちょんてせ）」や「李忠成（りただなり）の在日として生きている姿勢にすごく刺激を受けました。 サッカーを知らない人でも読める本です。 自分の知らない日本を知れるかも？			
	1-333	333P (120分)	277-316	2011/10/10 21:21:52

[TOP](#) ^